

| | | | | | |
|--|--|-----------|---------------|------|-----------|
| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
| 授業名,属性 | 教育学 | | 必修 | 1年前期 | 10コマ・20時間 |
| 担当教員 | 丸山 恒 | 背景 | 私立中高一貫校教員歴40年 | | |
| 授業形態 | 講義 | 実務家教員 である | | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | その都度参考文献を提示 | | | | |
| 授業概要 「教育」に関する基本的な概念やことがらを検討し、さらに今日の「教育問題」を考察し話し合っていくなかで、それらの背後にある社会・政治のあり方や哲学にも触れていければと思います。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 これまで当たり前・常識だと思っていたことを異なる角度から見てみたり、疑ってもみなかったことについて「なぜ？」と考えてみる。このような作業を繰り返すことにより多面的に物事を捉えたり、ディスカッションを通じて少しでも自分の思いや考えを「説明・表現」できるようになった、そう自己評価できるようになることを目指したいと思います。 | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 学生時代以来「現場主義」と「好奇心」で生きてきました。国内外で経験したさまざまな物事や出会った人々、それらが長い教員歴や授業そして人生を背後で支えてくれました。授業の外に脱線する、それも大切な「授業」だと考えています。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | 自己紹介 : 簡単なワークショップ | | | | |
| 2 | 教育とは? : 教育、勉強、学習、評価 | | | | |
| 3 | なぜ学ぶのか? : 学びの意味・役割 | | | | |
| 4 | 学校 : 近代の学校、「学校化社会」 | | | | |
| 5 | 学校・教育「問題」 : 不登校、いじめ、格差 | | | | |
| 6 | 学び=学校? : さまざまな学び | | | | |
| 7 | 発達・成長、できる・できない | | | | |
| 8 | 学ぶこと・治すことは無前提に善なのか? | | | | |
| 9 | ポスト・モダンの時代における教育・医療 | | | | |
| 10 | 人がより人間らしく在るために | | | | |
| 評価方法 | 自己評価10% 授業中の発言の量および質10% 筆記試験(論述)80% | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | 現在、教育も政治も硬直化し、一方的に自らの立場を押し通そうとする傾向が強くなっていると感じます。そのようななか、「学びは頭の柔軟体操」をモットーに、教育に関して根源的に考えていくなかで、「自由に考える」楽しさを味わってもらえたら嬉しいです。 | | | | |

| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
|--|--|-----------|-------------------------|------|-----------|
| 授業名,属性 | 心理学 | | 必修 | 1年前期 | 10コマ・20時間 |
| 担当教員 | 田中 智子 | 背景 | 保健センター等の心理職経験 専門学校講師22年 | | |
| 授業形態 | 講義 | 実務家教員 である | | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | 建帛社「心理学」と随時資料配布 | | | | |
| 授業概要 心理学のさまざまな分野から、人間の理解に役立つと思われるテーマを取り上げ、基礎的な知識を学ぶとともに、自分自身や臨床で出会う可能性のある人の行動や心の背景を考える機会を作る。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 認知過程、学習の理論、心の構造などの基礎的な知識を理解し、必要に応じて想起できるようになる。 認知や行動の一般的な傾向と一般的でない働きがさまざまな場面で生じることを知り、人について考え、今後臨床の場面で出会う方々の状態を考えるヒントにできる。 共通性、固有性、複雑さ、単純さ、強さ、弱さなど、人のさまざまな側面を感じてほしい。 | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 心理学の基礎的な知識とともに、それらに関連していると考えられる疾患や障がいなどについて、病院、障がい児施設、保健センター等での業務でお会いした方や経験したことなども含めて伝えることで生かしたい。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | 心理学の歴史 科学としての心理学のはじまりとその後の展開 | | | | |
| 2 | 認知心理学(感覚、知覚、認知)人が外界の情報をどのように処理し体験するかについて | | | | |
| 3 | 認知心理学(記憶) 記憶の過程、記憶の種類、記憶にある傾向について | | | | |
| 4 | 学習心理学(本能と学習) 学習とは何かについて、また本能など無学習行動について | | | | |
| 5 | 学習心理学 条件づけ学習とその応用、観察学習、洞察学習、マズローについて | | | | |
| 6 | 学習心理学 条件づけ学習とその応用、観察学習、洞察学習、マズローについて | | | | |
| 7 | 意識と無意識 フロイトの考えた心のしくみ、適応と適応機制について | | | | |
| 8 | 人格心理学 人格(性格)の理論、人格の形成、人格の変化と代表的な人格検査について | | | | |
| 9 | コミュニケーション 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて | | | | |
| 10 | 社会心理学(集団と個人) 集団の中での個人の行動について | | | | |
| 評価方法 | 提出課題 10% 筆記試験 90% | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | 教科書や資料にあることを、自分なら、または自分の身近に起きたことなら、など近くに置き換えて考える、積極的に感じるということで参加してほしい。 | | | | |

| | | | | | |
|--|---------------------------------|----------------------------|----------------|------|-----------|
| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
| 授業名,属性 | 社会学 | | 必修 | 1年前期 | 10コマ・20時間 |
| 担当教員 | 佐々木和裕 | 背景 | 専門学校を中心に教育歴30年 | | |
| 授業形態 | 座学中心 | 実務家教員 である | | | |
| 受講ルール | まわりに、迷惑をかけない。ノートを取る。スマホ持参 | | | | |
| 受講条件 | 社会について常に問題意識を持つことができる人(やる気のある人) | | | | |
| 教科書等 | 自分を知るための社会学入門 岩本茂樹著 中央公論親書 | | | | |
| <p>授業概要 社会を考えるための必要不可欠な社会学の基礎概念を理解する。現代社会を理解、考えていく。社会の中にある、不思議な事、変わっていると思うことを考える力をつけていく。</p> | | | | | |
| <p>狙いと到達目標 受講生が、社会学とは何かという意識を持ち、社会学の基礎的知識を身につけること、そのことによって私たちの生きる社会について分析し、考察できる基礎力を養う。将来医療人として、コミュニケーションの取れる、人の話を聞ける人になって欲しい。</p> | | | | | |
| <p>授業において実務経験をどのように生かすか 専門学校を中心に、教育歴30年、成年後見人として、10数年経験したことが、社会の変化を考え、人間の一生を考えることができる。社会学における、ライフコース、ライフサイクル、ライフステージについてより深く考えることができる。</p> | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | 社会学について | 授業概要・日程について説明 | メタメッセージ | | |
| 2 | 社会学のあゆみ 1 | 社会学の歴史 | 行為の意味解釈について | | |
| 3 | 社会学のあゆみ 2 | 鏡に映る自己・重要な他者/一般化された他者 | | | |
| 4 | 行為と行動 | | | | |
| 5 | 集団と組織 | 組織とコミュニケーション | 社会集団について | | |
| 6 | 地域社会 | 地域とコミュニティ | 自然村と行政村 | | |
| 7 | 社会的地位、役割 | 役割期待、社会化、印象操作、役割距離 | | | |
| 8 | 社会階層について | 社会階層、社会階級、職業威信、格差社会 | | | |
| 9 | ジェンダー | ジェンダーの理解、性別役割、職業労働と家事労働 | | | |
| 10 | 家族と社会 | 家族の基本概念、親密な存在ゆえの難しさ(愛情と憎悪) | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 100% | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | 少年老い易く学成り難し | | | | |

| | | | | | |
|---|--|----------------------|-----------------|-----------|-----|
| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
| 授業名,属性 | 情報科学 | 必修 | 1年前期 | 10コマ・20時間 | |
| 担当教員 | 芳賀孝志 | 背景 | 企業研修及び専門学校講師の経歴 | | |
| 授業形態 | 講義 | 実務家教員 である | | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | 改訂3版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト 著者名:財団法人専修学校教育振興会 監修 出版社:日本能率協会マネジメントセンター | | | | |
| 授業概要 情報の基礎知識からパソコンの操作・利用と役割・機能、情報モラルなどに関わる基礎知識を学ぶ。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 医療従事者に求められている情報科学の基礎知識、ならびにICTの基礎的な活用能力を習得する。 | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 複数の企業での職務経歴や、様々な業種の顧客企業へのサービス提供における関連経験を基に、事例を活用しながら、生徒の理解を促進する。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | 情報表現と処理手順1 | 情報とデータ | 情報の表現 | | |
| 2 | 情報表現と処理手順2 | 問題解決の方法 | | | |
| 3 | パソコンの基礎1 | パソコンの基本構成 ハード・ソフトウェア | | | |
| 4 | パソコンの基礎2 | OS | 入出力装置 | 記憶装置 | |
| 5 | インターネットの基礎 | インターネットの基礎知識 | | | |
| 6 | インターネットの利用 | メールソフトとWWW | | | |
| 7 | 情報機器の基本操作 | ワープロ | 表計算 | データベース | その他 |
| 8 | 情報社会とコンピュータ | 社会とコンピュータシステム | | 進展と課題 | |
| 9 | 情報モラル | 情報モラルとネチケット | | 関連法規 | |
| 10 | まとめ・試験 | 理解度チェック・評価 | | | |
| 評価方法 | 出席・試験・課題 | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | 毎日の生活でなにげなく扱っている、コンピューターなどの電子機器とたくさんの情報。それらの理解の内容や使い方で、学習や生活に、もっと有意義な活用ができます。また、その逆も然りです。授業を通じて、それらの正しい理解を、一緒に、楽しく、学習していきましょう。 | | | | |

| | | | | | |
|---|-------------------|-----------|-----------------------|------|-----------|
| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
| 授業名,属性 | 人間関係学 | | 必修 | 1年前期 | 10コマ・20時間 |
| 担当教員 | 渡辺俊彦 | 背景 | 牧師32年 教員歴36年 児童養護施設園長 | | |
| 授業形態 | 講義 | 実務家教員 である | | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | 特になし | | | | |
| 授業概要 人間が生涯、関係を持たなければならないのは自分自身である。そのため自分自身との関係性を成育歴を振り返りながらアセスメントする。そして、自己理解を深め自分自身に対する気づきが起こるような内容とする。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 成育歴で何を学び学習してきたのか。そして、自分との関係性の中で何を修正することが自分にとって適切なのかを具体的に示す。そして、不適切なところを修正し適切な出し方や関わり方ができるようになることを目指す。 | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 自己理解を深めることは他者理解へと繋がり良い関係性を構築することを可能にする。そのため、日常の人間関係のみならず、実習や専門職として仕事をするときクライアントと健全な関係性を構築するために生かす。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | コミュニケーションとは何か | | | | |
| 2 | 自己概念について(Ⅰ) | | | | |
| 3 | 自己概念について(Ⅱ) | | | | |
| 4 | 自己開示と人間関係 | | | | |
| 5 | 怒りについて | | | | |
| 6 | 健全な自己肯定感について | | | | |
| 7 | 自己分析(テスト) | | | | |
| 8 | バウンダリーについて | | | | |
| 9 | バウンダリーについて | | | | |
| 10 | まとめ | | | | |
| 評価方法 | 授業態度 20% レポート 80% | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | | | | | |

| | | | | | |
|--|--|----------|----------|-----------|--|
| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
| 授業名,属性 | 医学英語 | 必修 | 1年前期 | 10コマ・20時間 | |
| 担当教員 | 渡邊 悠馬 | 背景 | 作業療法士歴7年 | | |
| 授業形態 | 講義 | 実務家教員である | | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | リハビリテーションの基礎英語 改訂第3版(メジカルビュー社) 参考書:筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト辞典 (ナツメ社) | | | | |
| 授業概要 身体構造、部位、筋・神経、疾患、略語等を表す医学英語を学び、覚える。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 作業療法士が働く医療現場で日常的に用いられる、『医療用語』『リハビリテーション用語』『略語』等を英語で理解し、これからの勉強や実習での理解がスムーズに進むようにする。 | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 今学んでいる言葉が実際の現場でどのように使われているのか、作業療法士としての現場での経験を生かしながら伝える。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | リハビリテーションとは・リハビリテーションのための人体の基礎知識① (断面と方向) | | | | |
| 2 | リハビリテーションのための人体の基礎知識②(関節可動域・主要関節と部位) | | | | |
| 3 | リハビリテーションのための人体の基礎知識③(関節可動域・主要関節と部位) 小テスト | | | | |
| 4 | 人体の構造①(骨格系) | | | | |
| 5 | 人体の構造②(骨格系・筋肉系) | | | | |
| 6 | 人体の構造③(筋肉系)・小テスト | | | | |
| 7 | 人体の構造④(筋肉系・神経系) | | | | |
| 8 | 人体の構造⑤(神経系)・小テスト | | | | |
| 9 | 疾患とリハビリテーション① | | | | |
| 10 | 疾患とリハビリテーション②・略語 | | | | |
| 評価方法 | 小テスト50%、定期筆記試験50% | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | | | | | |

| | | | | | |
|---|--|----------|--------------|-----------|--|
| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
| 授業名,属性 | 文献講読演習 | 必修 | 1年前期 | 15コマ・30時間 | |
| 担当教員 | 中村 由美 | 背景 | 作業療法士経験年数12年 | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務家教員である | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | 知へのステップ | | | | |
| 授業概要 作業療法士を目指すにあたっては、様々な教科書や文献を読み、自主的に学ぶ姿勢が求められる。学年を追って、より専門的な内容の学びが増え、自分で考える機会も多くなっていく。本演習によって能動的に学ぶための基本となる力を身につける。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 ・文献を読んで、考え、疑問を持つことができる ・疑問を解決するために、調べ、整理することができる ・学んだことを使える知識として今後どう生かすか認識できる | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 作業療法士として対象者の作業療法を実施するために文献を読み、調べ、自分のケースに応用するという経験をしてきたので、その経験を生かしたい。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | オリエンテーション(この授業の目標と流れ)知識とは何かを考える | | | | |
| 2 | リーディング①テキストの読み方の基本 | | | | |
| 3 | リーディング②調べ方の基本 | | | | |
| 4 | リーディング③要約 | | | | |
| 5 | リーディング④感想と意見 | | | | |
| 6 | 演習①文献決定(各自) | | | | |
| 7 | ②文献を読む | | | | |
| 8 | ③わからない言葉を調べる | | | | |
| 9 | ④要約する | | | | |
| 10 | ⑤疑問抽出 | | | | |
| 11 | ⑥疑問解決(調べ作業) | | | | |
| 12 | ⑦整理・まとめ | | | | |
| 13 | ⑧意見と根拠 | | | | |
| 14 | ⑨今後に生かせること | | | | |
| 15 | ⑩グループ内での共有とディスカッション | | | | |
| 評価方法 | ・文献を読んで疑問を持てた数と質、調べた参考資料の数と信頼性、今後どう生かせると考えているかなど総合的に評価します。 | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | 時間外学習(文献検索や読書)が必要です。 | | | | |

| 課程 | 医療専門課程 | 学科 | 作業療法学科 | | |
|--|---|----------|--------------|-----------|--|
| 授業名,属性 | コミュニケーション論 I | 必修 | 1年前後期 | 20コマ・40時間 | |
| 担当教員 | 中村由美 中浦俊一郎 | 背景 | 作業療法士経験年数12年 | | |
| 受講ルール | 共通ルール | | | | |
| 授業形態 | 講義・演習 | 実務家教員である | | | |
| 受講条件 | 特になし | | | | |
| 教科書等 | 特になし | | | | |
| 授業概要 そもそも「コミュニケーション」とは何かについて理解を深め、対人援助職として位置づけられる作業療法士が求められる能力について考察できるような学びとする。 | | | | | |
| 狙いと到達目標 作業療法を成立させる土台としてのコミュニケーションを理解し、臨床現場におけるコミュニケーションの諸側面を具体的に取り上げ、演習やロールモデルを用いて実践的な学びを得ることを目標とする。具体的には次の通りである。 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション・モデルが理解できる ・自分自身の考える傾向や行動特性を他者に伝えられる ・チームでの情報共有のプロセスを理解することができる ・チームでの合意形成のプロセスを理解し、行動目標を掲げることができる ・目標の達成に関して振り返り、新たな課題についてチームで抽出できる | | | | | |
| 授業において実務経験をどのように生かすか 様々な職種や対象者、家族と接してきた。それぞれのメンタルモデル、専門家としての必要性、リスク管理、対象者の生活者としてのリアリティーのなかで、共通の目標を掲げる過程は実に難しい。学術的なことに加え、経験の中での問題解決の技術を伝えることができる。 | | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 1 | コミュニケーションとは（中浦） | | | | |
| 2 | | | | | |
| 3 | 組織のコミュニケーション1（クラス運営に向けての目標とルール作成、ビジョンの共有） | | | | |
| 4 | 哲学対話（問う・考える・語る・共有する） | | | | |
| 5 | 組織のコミュニケーション2（集団活動での取り組み、チームビルディング） | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | 振り返り（行動指針に基づいた振り返りからチームビルディングを考える） | | | | |
| 8 | 組織内のコミュニケーション3（学習する組織作りについて考える） | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | 振り返り（行動指針に基づいた振り返りからチームビルディングを考える） | | | | |
| 11 | 振り返り（演習を通して考えられる行動目標を明確にしていく） | | | | |
| 12 | 組織内のコミュニケーション4（社会人としてのマナー） | | | | |
| 13 | 相手との関係を築く（関係が築けたという実感を具体的に表現する） | | | | |
| 14 | | | | | |
| 15 | コミュニケーションを円滑にするための質問力について考える（中浦） | | | | |
| 16 | | | | | |
| 17 | | | | | |
| 18 | インプロワークショップ（演劇を通して「相手を受け入れる」「オファーを出す」を学ぶ）（中浦） | | | | |
| 19 | | | | | |
| 20 | 振り返り | | | | |
| 評価方法 | レポート | | | | |
| 自由記述 (メッセージ) | コミュニケーションを通して自分を知る、相手を知る機会とする。社会とつながる一手段として当たり前に使われている言葉であるが、セラピストとしてどのように使っていけばいいのか2年生の専門科目の学びにつなげていきたい。 【参考】 山口美和著 PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド 第2版 医学書院 | | | | |